

心因性不登校および発達障害のある生徒の指導

—共に悩み 共に微笑んで 生きる—

上 戸 綾 子 (長崎玉成高等学校)

はじめに

創立 121 年目を迎えた本校は、長きに渡り実業系私立高校として長崎県教育界の一役を担ってきた。また以前より「心因性不登校や発達障害の傾向がみられる生徒」をお預かりし、一人ひとりに肌理細やかな指導を行ってきた。これらの活動を基に、2009 年度より長崎県内初の「心因性不登校および発達障害の傾向がみられる生徒」を対象とした特化型クラス「共育コース」を設置(定数 20 名 1 クラス)。5 年目を迎えた。少子化傾向の長崎県内において、この「共育コース」の入試倍率は高く、小・中学校の教師・保護者からの要望も多いことから、2014 年 2 月 5 日の長崎県私立学校審議会にて定数増が承認された。2015 年度より「定数 20 名 2 クラス」にて募集を行うこととなった。まさに、「選ばれる学校」になっている。しかしながら、入学後の学校生活の安定そして卒業後の進路実現の実績がないことには今後加速する厳しい生徒減の時代に対応することはできない。この教育の基本ともいべき分野について、日々生徒と共にありながら研究実践を行った。

1. 研究の内容および目的

- (1) 心因性不登校の生徒の回復を目指す研究：小中学校時代、長期間不登校であった生徒の自己否定感はとて強い。カウンセリング力・アプローチ法・学力補充法について研究を行い本校職員にも伝えたい。
- (2) 発達障害における特性理解・指導方法の研究：生来の発達の偏りから生徒は小中学校時代に「からかいやいじめ」を体験してきている。また、教師の指導も従来の全体指導中心の傾向が見られ、障害に対する客観的認識が不十分である。さらにこの障害は大変多面的であり「一人ひとりの特性について正しい理解」が不可欠である。その上で、利用しやすく効果のある指導方法の研究を行い、本校職員への啓発およびスキルアップを図りたい。

2. 具体的取り組み

- (1) 実態把握 (アセスメント)：研究を進めていく上で、一人ひとりの実態把握を行うことはとても重要である。そこで全職員協力のもと、次の取り組みを行った。
 - ① 「個人ファイル作成および情報の共有可」：12 月の段階で保護者より出された「受験相談アンケート」をもとに、2 月入学手続き完了後から連絡を行い 3 月 2 日より「入学前親子面談」を行った。この段階で保護者の思い、生育歴を把握。同時に生徒に向けて「全日制高校で学ぶポイント」について笑顔で説明。「過去は問わない。新しいチャレンジですよ。安心していらっしゃい。」と伝え、新担任も紹介。最後に教頭先生からも語りかけていただき、本人も今の思いを述べて面談終了。その後 3 月 3 週目に出身中学校

を訪問。中3年次の担任からアドバイスを頂く。この2つの面談は、それぞれマニュアル化した記録用紙に「個人ファイル」として記入→保存。授業担当者等がいつでも確認できる状態にて担任保管。

- ② 「hyper-QU」(図書文化社)を4・12月に実施。比較検証。
 - ③ 全職員による「チェックリスト(長崎県教委)」による全校生徒を対象としたアセスメントを実施。→「個別の教育支援計画」作成。
- (2) 基礎力養成講座「ベーシック」の実施：週に国・数・英3時間。
伸び率検証 (表1)
- (3) 社会性養成講座： 1・2年「SST」 3年「LST」
- (4) 生活力養成講座： 1年「ハウスワーク」2時間
2年「職業訓練：PC検定・玉成ペーカリー社」各2時間
3年「職業訓練：玉成ペーカリー社」2時間 「玉成OAワーク社」
「社会人入門講座：電卓検定」2時間
- (5) 職員に向けた発達障害・カウンセリング技法に関する啓発活動。
- ① 全職員研修 「カウンセリング技法について」 平成25年5月8日(水)
講師 長崎大学大学院教育学研究科 准教授 内野成美氏
面接の基本・話し方聞き方の実際などについて職員の質問に答える形式で実施。内野氏からはアセスメントの大切さについて「どういう風に成長することが実現可能なのか、見通しを丁寧に行うことが大切。」と話された。有意義な時間であった。
 - ② 職員向け「特別支援教育通信」を毎月発行。 表2「木漏れ日通信」
 - ③ スクールカウンセラー3名および長崎大学大学院・長崎大学病院・長崎県発達障害者支援センター・長崎公共職業安定所・長崎障害者職業センター・長崎県立鶴南特別支援学校との「事例検討会」開催等の連携を行った。
 - ④ ケース会議：必要に応じて、担任・授業担当者・養護教諭・教務主任・教頭と参加者を増やして、一人ひとりの検討会を数多く行った。
 - ⑤ 生徒および保護者との面談：この点にもっとも力を入れた。
ア、新入生の中から、70日以上欠席者を抽出。加えて共育コース全員の入学前親子面談を実施。(実施率：新入生の25%)
イ、3日連続欠席者の親子面談。
ウ、共育コース2・3年生の進路に関する親子面談。
エ、保護者からのご希望。
オ、生徒との10分間面談。 *保護者面談数 延べ約120名。

3. 結果・考察

- (1) 「hyper-QU」2回の結果の比較から見えてくるもの。
検査結果からは、クラス内が2極化した課題が多いクラスであることがわかる。しかしながら2回目の結果に着目すると4月に「学級生活不満足郡」であった6名が「満足郡」に変化している。
- (2) 心因性不登校であった生徒の共通点は①人間関係につまづき人の目が気になり不安感が強いこと。②HR教室での授業を受けていないため、義務教育段階の学習が未修得。という

2点が挙げられる。本校において回復した生徒たちに話を聞くと、Aさん「中学校は6日間登校したのみ。卒業式も校長室だった。家で毎日勉強していた。あの頃はどのようにあんなに人の目を気にしていたんだろう。自分が思うほど人は私のことを気にしていないのに。」Bさん「小学校1年の時から休みがちだった。高校を卒業する今だから言えることがある。玉成に入ってくる人たちに伝えたい。何かあったら玉成の先生に話して。きっと聞いてくれるから！」 中学校時代にリストカットと嘔吐を繰り返していたCさん「中学校時代は友達に気を使いすぎて疲れた。」…3人とも学年が上がる毎に元気になり、進学・就職とそれぞれの道を決めた。

今年度「保健室・別室登校」は0名であった。

- (3) 発達障害の生徒は、認知面の特徴・コミュニケーションの苦手さ等日々の生活に困難を抱いている。打開策としては、①私たち教師が、『もしも我が子であったなら・・・』という気持ちでまず、あるがままの生徒を丸ごと受け止めることである。②生徒自身に自分の特徴・得意・不得意について気付かせる面談・職業適性検査・職業訓練等を根気強く続けること。③保護者の我が子理解を、客観的データや日々の記録などを示した面談などを複数回行い、親亡き後の我が子の自立に向けて共に話し合うことである。④担任一人が抱え込み悩むのではなく、「共に支えあう教師集団」として機能することである。
- (4) 「SST」「LST」の授業は コミュニケーション力の養成・さまざまな価値観・考え方を知るといふ観点から、大変有効である。今後も続けたい。

4. まとめ及び今後の課題

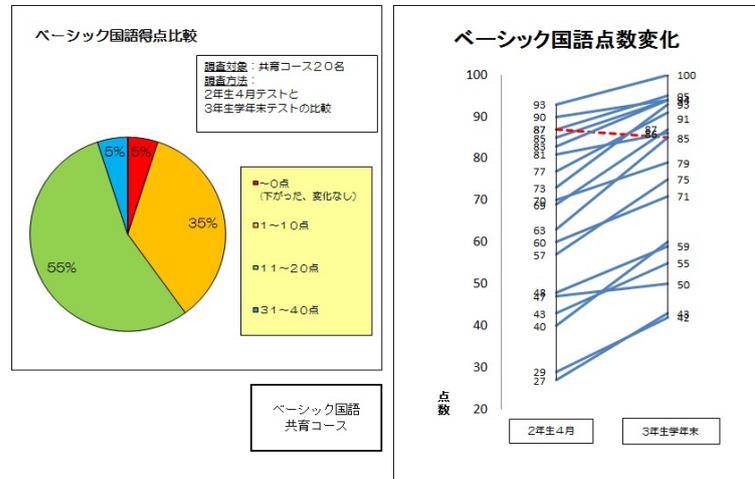
- (1) 心因性不登校の中でも医療機関での治療を優先すべき状況の生徒が少数みられる。もっと初期の段階で改善できないものか、今後中学校との連携を深める必要がある。
- (2) 「発達障害」という概念に教育界が注目するようになってまだ10年弱である。日ごと研究は進んでいる。この障害に関する正しい理解と人権教育・道徳教育の徹底が課題である。

おわりに

今回の取り組みは、とても地味で結果が目に見えにくい分野である。しかしながらこれらの生徒の教育に関する研究をおこなうことは「教師の使命」と考える。私自身も「特別支援教育教員免許」および学会連携資格「特別支援教育士」の資格を取得した。現在、生徒理解において大変役立っている。

さらに一人ひとりのニーズに応じた指導を行うために、時間はかかるが顔と顔を合わせ、共に悩み共に微笑みながら生きることを今後も続けたい。

表1 H25 ベーシック国語伸び率 3-2 共育コース



木漏れ日通信

2014長崎がんばらんぼ国体が10月12日~22日、そして長崎がんばらんぼ大会(全国障害者スポーツ大会)が11月1~3日といよいよ1年後に迫ってきました。そこで、生徒が使っている体育の教科書P350より・・・「障がい者スポーツ」真の意味での障がいとはなにか。ある駅で、階段を前に昇る人が立ち往生している。なぜその人は上の階段に上がることができないのか。・・・この問いに、皆さんなら何と答えるだろうか。「障がいがあるから階段を上がれないため」と考えた人もいるかもしれない。障がいがあるために「何かできない」という視点で捉え、社会を見渡していないだろうか。そうではない、障がいがあるうとなかろうと、その人が「何をできるのか」という視点で捉えることが大切である。後者の視点

で捉えていけば、先ほどの答えは「障がいがあっても車椅子で街中を移動できるのに、その駅にエレベーターがないから上がれない」となる。

*つまり「障がい者=特別な人」と考えるのではなく、「特別な配慮を必要とする人」には誰にでも適切な配慮をすることが大切なのである。

テーマ2【広汎性発達障害】PDD

・本校複数の保護者から、連絡・相談を受けています。次のような特徴があります。

- ① 社会性的特性
 - *他の人と関係をうまく作ることができない。
 - *視線が合わない。
 - *マイペースで、人に合わせるのが苦手である。
 - *暗黙のルールがわからない。同年齢の子どもと波長が合わない。
 - *まわりくどい言い方や冗談がよく理解できない。 など
- ② コミュニケーションの特性
 - *他の人に自分の思いや考えをうまく伝えることができない。
 - *言いたいことを一方的に話し、会話がならない。
 - *話し方が独特。(いつも丁寧語や標準語で話す)
- ③ 想像力の特性(興味のかたより)
 - *行動や興味の範囲が狭く、物事へのこだわりが強い。
 - *車や電車、時刻表などにとっても詳しい。
 - *突然の環境や予定変更によく対応できない。
- ④ その他の特性(からだの感覚の特性など)
 - 五感(視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚)に代表されるさまざまな感覚にかたよりをもちつつ人がいます。
 - *光をまぶしがる。キラキラしたものを好む。 *手先が不器用。ぎこちない。
 - *音、匂い、痛みなどに対する感覚が通常より鋭い、または鈍い。